

安全の手引き

2025年2月

在リオデジャネイロ日本国総領事館

はじめに

ここリオデジャネイロ市は、世界三大美港の一つに数えられる風光明媚な国際観光都市である一方、世界有数の犯罪都市としても知られています。

リオ市大都市圏には1,000を超えるファヴェーラ(スラム街)があり、重火器で武装した麻薬密売組織間の抗争や、当局の治安対策活動に起因する銃撃戦がしばしば発生しており、流れ弾によって多くの市民が死傷しています。

また、一般市街地でも路上強盗、すり、ひったくり等の街頭犯罪が多発しているほか、観光地や幹線道路等における集団強盗が後を絶ちません。わずかな油断が大きな被害につながるおそれがありますが、日頃から防犯意識や警戒心を持つことで犯罪被害に遭うリスクを小さくすることは可能です。

本手引きでは、リオデジャネイロにおける犯罪被害の形態とその対策・心構え等についてまとめました。皆様の安全対策、安全意識の高揚の一助としていただければ幸いです。

目次

1 治安情勢	3
2 防犯の基本的心構え	4
3 基本的防犯対策	5
4 場所別の主な被害形態と対策	5
(1) 空港	
(2) ホテル	
(3) 路上	
(4) 海岸	
(5) 車の運転	
(6) 公共交通機関	
ア. タクシー	
イ. バス	
ウ. 地下鉄・鉄道	
(7) 銀行	
(8) 飲食店	
5 強盗に遭遇した時の対応	9
6 誘拐対策	9
7 住居の選定と注意事項	10
8 交通事情と事故対策	10
9 テロ対策	10
10 在留届の提出	11
11 緊急事態に対する準備と心構え	11

1 治安情勢

リオ州では、2001 年以降、犯罪取扱件数が増加傾向にありましたが、2019 年以降は減少に転じ、さらに新型コロナウイルスに対する社会的隔離政策等の影響により、2020 年中の犯罪取扱件数は 58 万 4,989 件（対前年比 -25.2%）と著しく減少しました。しかし、その後の各種規制の緩和等により、2024 年中の取扱件数は 92 万 2,734 件（対前年比 +13.2%）と 2021 年以降増加傾向にあります。

特に当地での普段の生活において最も注意すべき強盗事件についても、2020 年以降減少傾向にありましたが、2024 年中の強盗事件の発生件数は、106,970 件（対前年比 +17%）で、コロナ禍以降初めて増加に転じました。強盗事件の発生件数は、日本と比較すると極めて高い水準です。

（1）殺人

2024 年中にリオ州で 2,930 件（対前年比 -363 件）、うちリオ市で 961 件（対前年比 -56 件）の殺人事件が発生しています。リオ州における人口 10 万人あたりの殺人事件発生率は約 18.25 件となっています。警察官の殉職事案が後を絶たず、暴力事件の多発化傾向が継続しています。

（2）強盗

強盗事件の発生件数は、2019 年以降 2023 年まで減少していましたが、2024 年中には、リオ州で 10 万 6,970 件（対前年比 +12,572 件）発生しています。人口 10 万人あたりの発生率は約 666.3 件となっており、1 年間にリオ市住民の約 95 人に一人が強盗の被害に遭っている計算となります。

強盗事件の内訳は、通行人強盗、自動車強盗、携帯電話強盗、商業施設強盗、交通機関内強盗、トラック積荷強盗等です。とりわけ、携帯電話機（スマートフォン）は狙われやすいので、使用する際には細心の注意が必要です。

買い物客や観光客で賑わう白昼の目抜き通りで強盗事件に起因する銃撃戦が発生することもしばしばあり、いつ、どこで事件が起きるか予測できません。

2024 年中は、コパカバーナ地区、イパネマ地区、セントロ地区を中心に邦人の被害が発生しました。

また、薬物が入れられた飲み物等を口にして、意識がなくなったところで所持品が強奪される昏睡強盗事件（ボア・ノイチ・シンデレラ）が多く発生しています。知らない人から提供された飲み物を安易に口にしないでください。また目を離れた隙に自分の飲み物に薬物を入れられないよう十分注意してください。

（3）窃盗

窃盗事件の発生件数は、2024 年中、リオ州で 17 万 9,527 件（対前年比 +12,884 件）発生しています。当地では軽微な被害の場合に警察に届出を行わない人が多いことから、統計値は氷山の一角と考えた方が妥当です。

タクシー等に乗車中であっても、車が停車中に窓の隙間から金品（特にスマートフォン）が窃取されたり、時には窓ガラスが割られて金品が窃取する事件が発生しています。車両の中であっても油断は禁物です。

当館に報告されている被害事例では、置き引き、すり、ひったくりが目立ち、場

所別では、コパカバーナ地区やイパネマ地区の海岸、飲食店、路上等が大半を占めています。

(4) カードスキミング

カードスキミングとは、クレジットカード等を使用した際にカードの磁気情報や暗証番号を特殊な機械に取り込み、偽造カードを作成して使用する犯罪です。当地では、路上や商業施設、銀行内に設置された ATM にスキマーと呼ばれる機器を取り付けてデータを盗み取る手口が主流です。特に大規模イベントの前後の時期には被害が多発する傾向がありますので、信頼できる場所でのみ ATM を使用するようしてください。カードを使用する際は、暗証番号を入力するところを盗撮されている可能性を忘れず、手で覆うように隠して暗証番号を入力することを心がけてください。

また、最近では、身に覚えのないカードの利用が過去にさかのぼって長期に亘り行われていたとの報告もあります。この場合、少額の利用が多く、被害者は被害に遭っていることにすら気づかない場合があります。ご自身のカードの利用状況と利用明細とをこまめにチェックするようしてください。万が一被害が発覚した場合には、すぐにカード会社に連絡することが重要です。

2 防犯の基本的な心構え

(1) 自分の身は自分で守りましょう。

当地に限らず、海外生活の基本です。常に警戒心を持って行動しなければ誰もが犯罪被害者となり得ます。

(2) 情報収集を徹底しましょう。

いつ、どこで、どのような犯罪や事故が起きているかを知っておくことにより、トラブルを未然に回避したり、事件に遭遇したときに適切に対処したりすることができます。当館のホームページに最近の犯罪被害事例や災害情報等の安全情報を掲載していますので、参考にしてください。

外務省が行っているサービスの一つに「たびレジ」があります。「たびレジ」は、海外旅行や海外出張をされる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、またいざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。当地に旅行、出張される際には是非ご登録ください。

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/index.html>

(3) 被害者にならないための対策を徹底しましょう。

犯罪者は、効率よく安全に利益を得るために標的を選びます。

- ① 対象となる金品（特に現金やスマートフォン）を持っている
- ② 容易に襲うことができる（警戒心が低い）
- ③ 襲った後のリスクが少ない（逃走が容易）

このような要件に該当する場合、狙われる危険性が高まります。

観光客や外国人は上記の要件を具備している可能性が高く、犯罪の標的になりやす

いと言えます。

周囲に溶け込む服装や所持品、行動を心がけるとともに、周囲の状況に対する警戒心を保ち、警戒心を態度で示すようにしましょう。

(4) 被害を最小限に抑えるための対策を徹底しましょう。

残念ながら、完全な防犯対策はありません。注意していても避けられない被害もあります。犯罪者に襲われた場合にどのように行動すべきか、また、絶対に奪われてはいけないものを持ち歩く際には、それを守るためにどのように保管・携帯すべきかを予め検討してください。

3 基本的防犯対策

- ・危険な場所(ファベール等)には近づかない。
- ・軽はずみな行動をしない。
- ・犯罪情報を収集して危険を回避する。
- ・不慣れな場所に不用意に行かない。
- ・常に警戒心を持つ。
- ・警戒心を態度で示す。
- ・華美な服装や装飾品の着用を控える。
- ・カメラやスマートフォンを公衆の場で不用意に使用しない。
- ・事故や災害に巻き込まれた場合や犯罪者に襲われた場合を想定して対処を考えておく。
- ・現金やカードは分散して保管しておく。
- ・財産に関する情報を人に知らせない。
- ・行動のパターン化を避ける。

4 場所別の主な被害形態と対策

(1) 空港

リオデジャネイロ国際空港では置き引きが多発しています。声を掛けたり飲み物等をかけたり、小銭をばらまいたりして気を引きつける役とその隙に物を盗む役とを分担する事例が多く見られます。荷物からは決して目を離さないでください。

また、空港到着者から標的を選定して、空港から市内への移動途中を狙う強盗団も存在します。この種の被害を避けるために、到着時に華美な服装を控えるようにしてください。

(2) ホテル

フロントやロビーでバッグを盗まれる事例もあり、ホテル内といえども安心はできません。空港と同様、荷物から目を離さないことが重要です。

一流ホテルのレストランでも置き引きは発生しています。席を離れるときは所持品を置いたままにしないでください。外出の際の持ち物は必要最小限とし、貴重品はホテル備え付けの金庫等に保管してください。

(3) 路上

犯罪の多くは路上で発生しています。当地で多発している路上強盗やひったくり、す

りを回避するために以下を参考にしてください。

- ・歩きながら携帯電話で話したりビデオや写真を撮ったりしない。
- ・周囲に気を配り、時々振り返るなど、警戒心を持っていることを示す。
- ・素行の悪そうな少年たちを見かけた際には、近寄らずに迂回する。
- ・目立つ服装や装飾品の着用を避ける。
- ・人混みではバッグを背負わない。
- ・ショルダーバッグなどのチャックを確実に閉める。
- ・ズボンの後ろポケットに財布等を入れない。
- ・現金やカードはひとまとめにせず分散して携帯する。

(4) 海岸

コパカバーナ、イパネマ等の海岸は観光客や市民にとって憩いの場となっていますが、その一方で、リラックスした観光客等を狙った強・窃盗事件が後を絶ちません。

また、コパカバーナ海岸の砂浜は非常に広く、特に水辺付近は砂浜がくぼんでいることから、警察官による監視の死角となりやすく、日の出前や夕方以降（暗い時間帯）に強窃盗被害に遭う観光客が多くなっています。被害に遭わないよう十分注意してください。

(5) 車の運転

自動車強盗が多発しています。被害を回避するために以下を参考にしてください。

- ・夜間の運転は控える。
- ・夜間は速度を調節するなど、信号待ちで先頭にならないように注意する。
- ・窓を全開にしない。
- ・車外から見えるところに貴重品を置かない。
- ・特に、二人乗りのバイクに注意する。
- ・乗降車前に付近に不審者（車）がいないか確認する。
- ・異音やパンクに気づいても慌てて止まらず、安全な場所に停車させる。
- ・追突されても慌てて車を降りない。
- ・出発前に道路環境・交通状況をよく調べ、渋滞等に巻き込まれないように注意する。

※信号待ちや渋滞等の停車中に強盗に襲われるケースが多く報告されています。夜間

は信号でもなるべく止まらなくて済むように、速度を調節するようにしましょう。

※車両強盗で一番危ないのは乗降時です。犯罪者は運転手を車から降ろすためにいろいろな仕掛けをします。車を離れる時はキーを抜く習慣をつけましょう。

(6) 公共交通機関

ア タクシー

リオではタクシーの台数が多いだけでなく、他の公共交通機関に比べて犯罪遭遇率も低く、利便性も高いですが、中には悪質な運転手もいるので注意が必要です。

- ・ラジオタクシーやタクシー乗り場に駐留しているタクシーを利用する。

スマートフォンのタクシー検索アプリの利用も有効ですが、アプリを確認しながら

らのタクシー待ちは危険です。

- ・流しのタクシーを利用する際は、車体にグループ名が明記されており、車内に法律で義務づけられている運転手の写真付身分証がきちんと呈示されている車を選ぶ。
- ・呼び止めたタクシーの運転手や車体、車内の様子を見て不安を感じた場合には、無理に乗らずにやり過ごす。
- ・運転手がメーターを不正に作動させた場合には、目的地で降車した後に苦情を申し入れる。走行中に口論しない。
- ・細工をしたクレジットカード決済機を使った不正請求事案が発生しているため、予め少額の現金を用意しておき、タクシー料金は現金で支払った方が安全です。

イ バス

路線バスはバスジャックを含め、車内犯罪が多発(2024年中、リオ州内において6,275件のバス等公共交通機関内における強盗事件が発生)しているほか、運転手及び乗客に問題がある場合が多く、トラブルも多発しているため、利用はお勧めできません。やむを得ず利用する場合には以下を参考に十分注意してください。

- ・セントロ地区発着の便で強盗事件が発生する可能性。
- ・バスの利用は南部地区に限定する。
- ・予め走行経路を確認する。
- ・様子のおかしい乗客がいたらすぐに降りる。
- ・長距離バスターミナル周辺は治安が劣悪。可能な限り、他の乗客もいる待合室内でバスを待つ。
- ・長距離バス内で居眠りしている間に所持品を持ち去られるケースが多い(特に、サービス・エリア停車中)。
- ・リスクが高い乗り物であることを認識し、防犯対策をした上で利用する。
- ・窓際に乗車した際、車両停車時に外から犯罪者がジャンプして窓から手を伸ばして持ち物を奪い去るケースが多い。

ウ 地下鉄・鉄道

- ・南部地区の地下鉄は比較的安全ですが、油断は禁物。
- ・地下鉄でもマラカナン駅以北の利用は危険。
- ・『Supervia』鉄道の沿線にはスラム街が多だけでなく、駅舎そのものがスラム街直近に位置する場所もあります。また、沿線のスラム街で警察との銃撃戦が発生し、運行が中止されることもあるため、利用はお勧めできません。

(7) 銀行

ア スキミング

当地ではキャッシュカードのスキミング被害が多発しています。以下を参考に防犯に努めてください。

- ・信用のおける場所でのみ使用する。

- ・危険な場所（空港や地下鉄駅構内・出入口のATM、ガソリンスタンド併設のコンビニのATM等、犯罪者がスキマー（カード情報読取装置）を設置しやすい環境下では極力使用しない。

（着眼点）

- ・カード差し込み口に不審な点はないか。
- ・同一ATMコーナーの他のATMが故障していないか。
- ・天井等に暗証番号を撮影するための隠しカメラが設置されていないか。

※スキマーを仕掛けた端末を使用させるために周辺のATMを壊す、又は故障中の張り紙をすることがあります。また、大規模イベント開催時にはスキミングの犯罪グループが集まるので、普段にも増して注意が必要です。

イ 出待ち強盗対策

当地では多額の現金を下ろした人を銀行の外で待ち伏せして襲撃する手口の強盗が、2024年中、リオ州で267件発生しています。被害回避のために以下を参考にしてください。

- ・銀行内・外に不審者（車）はいないか。

※出待ち強盗のほとんどが複数犯です。標的を店内で物色する役、店外で実行犯に知らせる連絡役（連絡役が銀行職員の場合もある）、実行犯（バイク2人乗りが多い）に任務分担されており、標的にされると被害回避が難しいのが現状です。

※銀行前には警備員の配置があるため、銀行を出てタクシー等に乗車したところをバイクで追跡し、適当な場所で犯行に及ぶ場合もあります。

- ・下ろした現金を人前で数えない。

※現金を数えると金額の多寡を犯人に知らせることになります。

- ・人の多い時間帯を避ける — 昼食時間帯、月初めの1週間は要注意

※月初めは年金を下ろしに来る高齢者が標的となりやすく、さらに、銀行が混んでいると不審者に気づきにくくなります。

- ・多額の現金を銀行に持ち込むときには他人に知らせない

※事前情報に基づいて犯行に及ぶ例もあります。内部の人間にも現金輸送等の情報を漏らさないように注意してください。

※決まった曜日、時間帯における定期的な利用を避けてください。（標的となりやすくなります。）

（8）飲食店

- ・飲食店では置き引きが多発しています。特に椅子の背もたれに鞆をかけておいたものがいつの間にかなくなっていたり、会計やトイレのためにわずかな時間鞆から目を離れた隙に盗まれるケースが目立ちます。
- ・高級飲食店周辺では路上強盗やひったくりの発生率が高くなっています。車で行く場合は、付近の路上に駐車せず、店の配車係に駐車を依頼してください。
- ・営業中の飲食店を武装強盗団が襲撃する事例が起きています。パニックに陥るこ

となく冷静に対応するように努めてください。走って逃げたりすると、警察への通報を恐れて銃撃されるおそれがあります。

5 強盗に遭遇した時の対応

不幸にして何らかの事件に巻き込まれた場合は、身体・生命の安全を最優先に考えて行動してください。犯人に金品を要求された場合、抵抗することは大変危険です。犯人は気が高ぶっており、銃で撃たれたり、刃物で刺されたりする危険性がありますので、以下のことに留意してください。

- (1) 絶対に抵抗しない。
- (2) 慌てず騒がず冷静に対処する。
- (3) 相手の顔を直視しない。
- (4) 急な動作をしない。
- (5) 相手に無断でポケットや懐、鞆に手を入れない。
- (6) 他人が襲われているのを見てもむやみに助けに行かない。(相手を逆上させて、犠牲者を増やすことにもなりかねません。状況に応じた対応をお願いします。)
- (7) 被害届の提出(被害に遭ってしまったら、できるだけ速やかに警察に届け出てください。被害届を出さなければ警察は事件を把握できず、治安上の問題を認識できません。)

※被害現場に呼ぶのは Policia Militar (リオ州軍警察)、被害届を受理して事後の捜査をするのは Policia Civil (リオ州文民警察) です。

(8) 当館への連絡

警察への被害届に不安がある場合には、当館が被害届のお手伝いを致しますので、ご連絡下さい。(電話 21-3461-9595 ※緊急の場合は、閉館中であっても緊急対応窓口で電話を転送することが可能です。)

※情報共有のために当館にも被害の状況をお知らせください。

※当館から警察等に警戒強化を要請をすることもできます。

6 誘拐対策

2024年、リオ州では156件(前年比+43件)の sequestro relampago(電撃誘拐)と呼ばれる短時間誘拐事件が発生しています。

電撃誘拐とは、凶器等で被害者を脅し、身柄を拘束しながらショッピングセンターや銀行のATMでクレジットカードやキャッシュカードで限度額まで買い物をさせたり、キャッシングをさせたりする行為です。誘拐の被害を防ぐためには、目立つ服装や高級車の使用を控えるとともに、行動のパターン化を避けることが有効です。万が一誘拐されてしまった場合には、決して抵抗せず、身体の安全を最優先に考えてください。

7 住居の選定と注意事項

- (1) 住居周辺の治安は問題ありませんか。地図等を活用し、住居とファベラの位置関係、通勤経路等を確認してください。また、管轄警察署をあらかじめ把握しておくことも重要です。
- (2) 24時間体制で門番が配置され、防犯カメラ等の設備が整ったアパートを選択してください。可能な限り低層階を避けて大規模な物件を選択してください。世帯数が多い物件の方が犯罪の標的とされにくくなります。
- (3) 玄関戸は多重鍵にし、ドアスコープを設置してください。メイド等には必要最低限の鍵以外は渡さないようにしてください。
- (4) 駐車を監視する警備員が存在し、出入りは安全かつ迅速に行えますか。
- (5) 身に覚えのない訪問者や宅配業者は敷地内に立ち入らせず、郵便物は門番に受け取らせるようにしてください。ネット業者等を装った訪問強盗も頻発していますので、警戒が必要です。
- (6) 門番にも自分の経済状況や旅行予定等を不用意に話さないでください。

8 交通事情と事故対策

- (1) 当地の運転マナーは劣悪です。他のドライバーがルールを守った運転をすることは期待できません。常に周囲の車の動静を注視し、安全確認を行ってください。また、無理な追い越しをされたりぶつけられそうになったと感じたりも腹をたてないようにしましょう。
- (2) 道路は基本的に自動車優先です。横断歩道では、青信号でも必ず安全確認をしてください。
- (3) 救急体制が日本と比べて脆弱で、交通事故で負傷した場合、迅速に医療機関へ運ばれる保証はありません。万一の場合に被害を軽減するためにも、シートベルトは必ず着用し、幼児、子供にはチャイルドシートを使用してください。
- (4) GPSナビゲーションの入力ミスにより、誤ってファベラ（スラム街）に迷い込み、ファベラの犯罪組織から銃撃を受けた事例が散見されます。GPSは最短距離のルートを表示する 경우가多く、安全面は考慮されません。自動車を運転する際には事前に経路をよく確認してください。誤ってファベラに迷い込んでしまった場合は、慌ててその場を離れようとすると不審に思われて襲撃されるおそれがありますので、落ち着いて行動し、近づいてきた人物に対しては道を誤った旨を説明するなど、指示に従ってファベラから出るようにしてください。
- (5) 運転中は、常に周りを警戒し、不審なバイクや車両に追跡されていると感じた場合は、経路変更またはUターン等をして最寄りの警察署等安全な場所へ避難しましょう。その際、人通りの少ない場所に迷い込むことのないよう十分注意してください。

9 テロ対策

ブラジルでは過去に目立ったテロ事件の発生はありませんが、国際的な大規模イ

ベントや繁華街における飲食店等を標的としたテロが敢行される可能性は決して否定できません。非常時の連絡手段や避難時の集合場所を決めておき、会社、コミュニティごとにテロ対策訓練を実施しましょう。

このほか、職場では、安全担当者を指定して専門的研修を受けさせたり、不審物が届いた場合の対処要領について定めたりするなど、平素から有事に備えることも大切です。運転手を雇用している場合は、平時の心構えや緊急時の脱出対処方法等について専門家による講習会を定期的開催することも有効です。

また、必要に応じて、職場出入口付近への金属探知機やX線検査機の導入も検討してください。

10 在留届の提出

(1) 旅券法により、外国に3か月以上滞在する方は、管轄する在外公館に在留届を提出することが義務づけられています。住所等が決まったら、速やかに在留届を提出してください。日本に住民登録を残している場合でも在留届を提出してください。

在留届は当館ホームページからオンライン (<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/>) で登録すると、その他の各種サービス(旅券、各種証明書発給)の申請がオンラインで行えるほか、オンラインでのクレジットカード決済もご利用になれます。書面での提出を希望する場合は、郵送や当館窓口での提出も可能です。

(2) 住所の変更、帰国や他国への転出の際には、必ず「変更届」/「帰国/出国届」を提出してください。

(3) 滞在期間が3か月未満の予定であっても、安否確認が困難と予想される地域等に行かれる場合には、在留届の提出をお勧めします。

(4) 緊急事態発生時には、在留届に基づいて領事館から緊急一斉メールを配信します。このようなサービスを受けるためにも、在留届を提出する際には、メールアドレスを登録してください。

(5) 在外公館においてパスポートの申請、各種証明書の申請、戸籍/国籍関係の届出、在外選挙人登録申請を行う際、在留届が提出されていると手続きがスムーズに行われます。

(6) 小中学校教科書の無償配布等は、在留届を基に調査を行います。在留届が提出されていないと、本来受けられるサービスを受けられないことがあります。

11 緊急事態に対する準備と心構え

緊急事態とは、暴動、内乱、戦争、大きな自然災害等が発生し、緊急避難や国外への脱出、引き揚げ等を検討又は実施する必要がある事態を指します。当地においては、現在そのような事態が発生する可能性は低いと判断していますが、平時から不足の事態に備えて、物資と心の準備をしておくことは大変重要です。

(1) 平素の準備

平時から緊急事態を想定して準備しておくことが大切です。緊急時に慌てることが

ないように、滞在地にいかなるリスクが存在するのか、緊急事態が発生した際にどのような行動をとるのかあらかじめ想定し、しっかりとした準備をするようにしてください。

- ・何か問題が生じた場合に、どこに避難するか、どのような行動を取るのか家族や職場であらかじめ話し合っておきましょう。
- ・領事館、病院、警察署等の連絡先を確認しておく。
- ・海外旅行保険に加入する。（当地での医療費は極めて高額です）
- ・緊急事態に備えるために、必要物品を準備しておきましょう。

- 飲料水(1日1人あたり4リットルが目安)
- 缶詰等の長期保存食と缶切り
- 手袋・着替え・レインコートや傘等の雨具
- 毛布または寝袋
- 応急手当キット及び最低1週間分の処方薬（薬は有効期限が切れる前に詰め替える）
- 携帯ラジオ・懐中電灯・多量の乾電池・ろうそく
- 現金
- 自宅と自動車のキー(スペア)
- 家族または同僚等との緊急時集合場所を記述したメモ及び周辺の地図
- ホーム・ドクターの連絡先
- 心臓ペースメーカーの種類、家族全員の健康・医療情報
- 写真つきID・保険証・身元確認資料等重要書類のコピー
- 家族に幼児・お年寄り・身体障害・ペットを持つ方がいる場合には必要な物品
- 警笛
- 石鹸・歯ブラシ・歯磨き粉等の衛生管理用品
- スニーカー等の歩きやすく頑丈な靴
- ヘルメット(あれば便利)
- 防塵マスク(あれば便利)
- 予備のメガネ(あれば便利)
- 緊急時連絡先等リスト
- 海外旅行保険への加入

(2) 緊急時の行動

ア 基本的心構え

緊急事態が発生し、または発生するおそれのある場合、総領事館は邦人保護のため

めに所要の情報収集、情勢判断および対策の策定を行い、緊急メール（要在留届又はたびレジ登録）や連絡網を通じて連絡します。平静を保ち、流言飛語に惑わされないように注意してください。

イ 情報収集

緊急時に家族等と離れている場合には、早急に安否を確認して下さい。またテレビやラジオ等で情報を幅広く収集し、正確な実態把握に努めてください。

当館に在留届を提出されている方（メールアドレスをご登録された方のみ）及び旅レジに登録されている方には、緊急事態発生の際、当館から一斉メールが送信されます。

電話やインターネットの回線が正常に機能しなくなった場合には、当館よりFM放送を利用して情報を提供する場合があります。周波数は89.5, 89.8, 90.0MHzのいずれかが使用されます。

ウ 情報共有

当館より皆様に効果的な情報提供を行うために、皆様が入手された情報で有用と思われるものは当館にお知らせください。

エ 国外退避

事態の悪化により自発的に帰国、若しくは第三国へ退避する場合は、当館に連絡してください。出国前に当館への連絡が困難な場合は、外務省ホームページから電子届で帰国届を提出、または帰国後に日本の外務省領事局海外邦人安全課（電話：03-5501-8160）等へ通報していただいても結構です。

当館が「退避勧告」を発出した場合、一般商業便が運行している間は可能な限り早急に国外へ退避してください。なお、臨時便やチャーター便を手配されているような場合は当館の指示に従ってください。

(3) 非常時の連絡先一覧

ア 在リオデジャネイロ日本国総領事館

住所：Praia do Flamengo, 200,10 andar, Flamengo

Tel：(021) 3461-9595

イ 救急車 192（公立病院に搬送されます）

※ブラジルにおいては公的医療の質や水準が必ずしも十分ではないため、信頼できる私立病院を平時から把握しておくことをお勧めします。

ウ 救急対応のある主な私立総合病院

- ・ Hospital Copa D'Or（コパドール病院）

住所：Rua Figueiredo de Magalhaes, 875, Copacabana

Tel：(21) 2545-3600

- ・ Hospital Samaritano（サマリターノ病院）（※小児対応はなし。）

住所：Rua Bambina, 98, Botafogo

Tel：受付 (21) 2537-9722、(21) 3444-1000

エ 軍警察 190（日本の110番に相当）

※軍警察は日本の警察の交番やパトカー、機動隊に概ね相当する業務を担当して

おり、犯罪被害や交通事故に遭った際に現場に警察を呼ぶ場合は190番に電話してください。英語が通じない場合もありますので、そのような場合にはポルトガル語ができる知人等の助けを得る必要があります。

オ 文民警察

※文民警察は日本の刑事等に概ね相当し、犯罪捜査を担当します。被害届は犯罪発生地¹の警察署に届け出ることが原則ですが、観光客などの短期滞在者はDEAT（観光警察署）に被害届を提出することができます。DEATでは英語その他各種言語で比較的スムーズな対応を受けることができます。

— 管轄区域 —

- ・ DEAT（観光警察署）
住所：Av. Afranio de Melo Franco159, Leblon
Tel：:2334-6802/2334-6807
- ・ 第5文民警察署（セントロ・ラパ地区、パケタ島）
住所：Av.Gomes Freire,320,Centro
Tel：:2332-8110/2332-8106
- ・ 第9文民警察署（フラメンゴ・ラランジェイラス・カテチ・コスメリョ・グロリア地区）
住所：Rua Pedro Americo,1,Catete
Tel：:2334-3969/2334-4126
- ・ 第10文民警察署（ボタフォゴ・ウルカ・ウマイタ地区）
住所：Rua Bambina,140,Botafogo
Tel：:2334-8085/2334-8078
- ・ 第12文民警察署（コパカバーナ（一部）・レーメ地区）
住所：Rua Hilario de Gouveia,102,Copacabana
Tel：:2332-7914/2332-7907
- ・ 第13文民警察署（コパカバーナ（一部）地区）
住所：Av.Nossa. Senhora de Copacabana,1260,Copacabana
Tel：:2332-2074/2332-2039
- ・ 第14文民警察署（イパネマ・レブロン地区）
住所：Av.Humberto de Campos,315,Leblon
Tel：:2332-2866/2332-2874